

植物多様性センターの「クワクサの花」

クワクサは路傍や草地で普通にみられるクワ科の一年草で、花粉を風で運ぶ風媒花の植物です。9月～10月にちょっと地味で人目を引きにくい花を咲かせます。葉の脇につく花序を観察すると、白い雄しべのある雄花の間から紫色をした糸状の雌しべから出ているのが分かります。雌花はとても小さく、雌しべのほかは外側から見る事ができません。雄花には、勢いよく雄しべを伸ばして花粉を飛ばす仕組みがあり、背が低いクワクサでも遠くまで花粉を飛ばすことができます。



種名の由来であるクワに似た葉を互生につける。



花序: 5~10mm程度の大きさの集散花序。



雄花: 大きさは約2mm。花被は4裂し、雄しべの数は4個。



雌花: 雌しべを除いた大きさは約1mm。花被は開かない。